

日本共産党えんど久子県議ら紹介議員として

インボイス延期を求め議長に申し入れ



受け取った森優子議会事務局長は「議長に伝えます」と答えました。大分県議会内2023. 7. 3.

大分県商工団体連合会は、7月3日、自営業者などに増税となるインボイスについての請願書を元吉俊博議長あてに提出。インボイスの実施延期の意見書提出を求める請願で、日本共産党の堤栄三・えんど久子両県議が紹介議員として同席しました。

木村鉄男県商連会長らは「インボイスの登録をしないために取引を中止された例もある。今だに周知と理解がされていない状況で、今年10月に実施されれば大変混乱し、経済にマイナスになる。インボイスは税率変更を伴わない消費税の増税策だ」と訴えました。えんど久子県議は「せっかく公的支援を受けてコロナ禍を乗り越えてきた事業者を、インボイスで廃業に追い込んでほしくない」と話しました。

県議会は7月5日開会され、この請願は28日の県議会総務企画委員会で審議されます。

- ・臼杵市の特別養護老人ホーム四季の里にてICTを活用した抱え上げない介護を視察。機器に支えられて立ち上がることを体験するえんど久子県議。(右の写真) 2023. 6. 7.
- ・大分大学の減災・復興デザイン教育研究センターにて。鶴成教授の話聞いた後、今年5月の石川県能登地方と同じ地震の揺れを体験するえんど久子県議。(下の写真) 2023. 6. 23.
- ・他にも、荒れた松林を再生させた奈多狩宿住吉海岸の松林を守る会の活動など、各地を視察。

福祉保健生活環境委員会の県内視察



日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団

大分県議会議員 えんど久子

TEL・FAX 097-537-2344

No. 67

2023.7.5.

PFOS・PFOA県内の状況は？

各地で土壌や水質が汚染

えんど久子県議は 3月14日の県議会の福祉保健生活環境委員会で、土壌や水質の汚染が問題となっているPFOS（ピーフオス）PFOA（ピーフオア）の県内の状況について質問。有毒で残留性が高くわずかな量でも、がんや低体重出産などの健康被害を引き起こすといわれています。

以下は、会議録より担当課長の答弁の主旨です。

乙津川で高い値を検出

PFOS・PFOAは、フッ素化合物の一種で泡の消火剤や撥水コーティングなどに使われている。国が令和元年度末に全国調査を行った。大分市の乙津川で高い値が検出された。翌年に大分市の工場をいくつか調査し、原因と疑われる工場の周辺の井戸を調査したところ、いくつか高い値が検出された。その井戸水が汚染されている原因ははっきりしていない、工場も浄化対策を取っており、水道の水源もないので、影響は小さいと考えている。

大分市以外は問題なし

県内でも同様にフッ素化合物を扱っている工場はないか調査したが、大分市を除いてはそのような工場はない。公共用水機能監視水質調査をやっており、令和2年度と令和3年度は、県と大分市でそれぞれ河川のPFOS、PFOAの調査をしている。現在、県が調査しているところでは、問題はない。

（大分県議会HPで常任委員会の会議録を見れます）

県議会の質問の機会を増やそう

市町村の議会では、全ての議員が毎回の議会で一般質問する権利があります。しかし、大分県議会では、日本共産党県議団（2人）が一般質問できるのは4年間で9回（1人年1回程度）と限られています。日本共産党県委員会と県議団は、6月2日、議会改革を求め議長に申し入れました。①毎回の定例会で希望する全議員が一般質問できるようにすること、②共産党以外の議員が受け取っている費用弁償（議会開会中、報酬・交通費とは別に1日3000円支給）を中止すること、などを求めました。今後とも実現をめざしがんばります。



元吉俊博議長（右）に申し入れる左から山下かい党県書記長、堤栄三・えんど久子両県議。えんど県議は「本会議での発言機会を増やすべきだ」と強く求めました。議長は「意見は議会運営委員会などに伝える」と応じました。 2023.6.2. 議長室にて